

研究計画概要書

研究課題名	改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) 学生版 (NS-J-MSQ) 第2版の開発	
研究組織	研究責任者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻・教授・太田勝正
	研究分担者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学大学院医学系研究科博士課程 (後期課程) 看護学専攻2年/ 中部大学生命健康科学部保健看護学科・助手・滝沢美世志
	共同研究者 (所属・職名・氏名)	
	研究事務局 (機関の名称・住所・連絡先)	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻 名古屋市中区大幸南1丁目1番20号 TEL: 052-719-1921
研究の意義・目的	<p>本研究は、先行研究で開発した看護学生の道徳的感受性を測定するための改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) の学生版第1版 (滝沢,2015) の信頼性、妥当性をさらに改善するために行うものである。</p> <p>サラ T.フライ (2005) は、専門職としての質の高い看護を実践するには、倫理的決断を行う能力が不可欠であり、倫理的決断に至るまでの過程に看護師自身の倫理的知識、価値観や人生経験、認知能力、道徳的感受性、理論的能力、道徳的直観を用いることを述べ、道徳的感受性の必要性について示している。倫理的な実践には倫理的な意思決定が不可欠であり、その過程において理論的知識だけでなく、患者の脆弱性を理解し、患者に寄り添い、その状況における文脈的な理解から道徳的な問題を識別する道徳的感受性を必要とする。</p> <p>道徳的感受性を測定する尺度としては、1994年に Lützén らにより精神科看護師を対象として提供された Moral Sensitivity Test があり、この尺度に改訂を重ね2006年に r-MSQ として看護実践領域全般に適用する尺度がある。日本においては2006年に前田らが信頼性・妥当性を検証した r-MSQ の日本語版である改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) が存在する。しかし、J-MSQ は看護師向けの尺度であり、尺度をそのまま学生に適用することは困難である。そのため、もし、学生の道徳的感受性を測定可能なものが手に入れば、学生にとっては自己の道徳的感受性の習得の程度、感受性の不足部分を客観的に知ることが可能であり、自己の道徳的感受性の今後の課題が明確となる。一方、教員にとっては客観的な測定結果により、道徳的感受性のどの部分を指導すればよいのか明確となり、効果的な倫理教育を行うために大変有用であると考ええる。研究者らは先行研究において r-MSQ および J-MSQ をもとにして学生にも使用可能な9項目からなる J-MSQ 学生版第1版の作成を進めてきたが、信頼性、妥当性のあるものとして完成には至っていない。そこで、今回さらなる改良を加え、信頼性、妥当性のある尺度へと完成させることを目的として研究を進めたいと考える。</p>	
主な選択基準	<p>本研究は、学生のための尺度を開発するものであり、したがって対象は、看護大学および看護専門学校の学生とする。第1段階は、便宜的に抽出した1校の3年課程の看護専門学校に在籍する2年生および3年生を対象とする。第2段階は、看護大学および3年課程の看護専門学校に在籍する看護学生 (編入生を除く) を対象とする。第3段階は、看護大学および3年課程の看護専門学校に在籍する看護学生 (編入生を除く) を対象とする。第4段階は、第3段階で調査協力していただいた学校の学生を対象とする。なお、学生個々の前後比較のための連結は行わない。</p>	

<p>研究方法（多施設共同研究の場合は、 本学の役割も記載）</p>	<p>研究は、以下の第1～第4段階を経て行うこととする。 第1段階：NS・J・MSQ第2版原案の表面妥当性について、看護学生で構成されたフォーカスグループインタビューにより、尺度で問われている場面の理解について問題点を明らかにする。その結果に基づいてNS・J・MSQ第2版原案を修正する。 第2段階：看護学生を対象としてNS・J・MSQ第2版原案を用いた質問紙調査を実施し、妥当性の構成的側面（構成概念妥当性）、および外的側面（基準関連妥当性）の検討を行う。外的基準としては、森敏昭ら（2002）の大学生のレジリエンス測定尺度を使用する。構成概念妥当性が確保されるまで、第1、第2段階を繰り返す。 第3段階：看護学生を対象として第2段階で完成したNS・J・MSQ第2版を用いた質問紙による縦断調査（調査時および1年後の変化の検討）の初回調査を行い、妥当性の結果的側面（尺度としての有用性、適切性）を検討する。 第4段階：第3段階と同じ学生に対してNS・J・MSQ第2版を用いた質問紙調査による1年後の追跡調査を行い、尺度としての有用性と妥当性を検討する。</p>
<p>研究期間</p>	<p>実施承認日から2019年3月31日まで。</p>
<p>インフォームド・コンセントの方法（説明を行う者等）</p>	<p>研究の同意は、インタビューにおいては、研究分担者が書面による同意書を取る。質問紙調査においては、回答の郵送をもって同意が得られたものとする。</p>
<p>個人情報の管理体制（個人情報管理者、 連結表の管理体制等）</p>	<p>第1段階のインタビューについて、インタビューの日程調整の連絡のために調査協力可否の回答用紙によって対象者の氏名、連絡先を取得する。これは名古屋大学医学部保健学科本館5階看護情報学研究室のカギのかかるキャビネットに保管する。なお、この個人情報については連絡調整以外に用いることはなく、研究終了後速やかにシュレッダーを用いて破棄する。また、インタビューで語られた録音内容は、個人を特定できる情報を除いて逐語録を作成し、研究終了後に速やかに消去する。また、逐語録に起こしたデータについて保存についての同意が得られた場合には、セキュリティロックのかかるUSBなどの外部記憶装置に10年間保存し、その後速やかに消去する。 第2、3、4段階の質問紙調査は無記名であり、個人情報は含まないが鍵のかかるキャビネットに保管する。質問紙は研究が終了後、速やかにシュレッダーを用いて破棄する。また、得られたデータは研究以外の目的で使用することはない、保存についての同意が得られた場合には、セキュリティロックのかかるUSBなどの外部記憶装置に10年間保存し、その後速やかに消去する。 第3、4段階の調査に協力して下さった学校からの希望があれば、学校単位での平均スコアを文書で報告するため学校毎に質問紙と連結する。ただし、その学校からの回答数が10件を下回る場合には、学校単位での結果の提示は行わず、調査全体の提供にとどめるものとする。連結表については鍵のかかるキャビネットに保管し、研究が終了した時点で速やかにシュレッダーを用いて破棄する。なお、個々の学生レベルで連結は行わない。 研究の成果は学会や専門雑誌などで公表するが、個人を特定できるような情報は公表しない。</p>
<p>研究で収集した試料・同意書の保管場所、 研究終了後の試料の取扱い</p>	<p>フォーカスグループインタビュー協力連絡票、同意書、インタビュー録音データ、逐語録データ、質問紙、質問紙データ、および学校ごとの連結表については、研究期間中は名古屋大学医学部保健学科本館5階看護情報学研究室にある鍵のかかるキャビネット内に保管する。研究終了後は、逐語録データ、質問紙データを除きシュレッダーにて速やかに破棄処分する。逐語録データ、および質問紙データは保存についての同意が得られた場合には、セキュリティロックのかかるUSBなどの外部記憶装置に10年間保存し、その後速やかに消去する。</p>
<p>効果安全性評価委員会 （委員の職名・氏名・審査間隔）</p>	
<p>被験者に重篤な有害事象が生じた場合 の対処方法</p>	

※この概要書は、HP等で公開されることを前提に作成し、原則としてA42枚以内に収めること。